

## 第 24 回 西区地域福祉保健計画推進・評価委員会 議事要旨

開催日時	令和4年6月13日（月） 14時00分 ～ 16時00分
開催場所	西区役所3AB会議室
出席者	<p>20名                  天笠委員、澁谷委員、米岡委員、武田委員、西田委員、並木委員、深野委員、伊神委員、竹下委員、本間委員、永瀬委員、鳴神委員、北井委員、渡辺（正）委員、石渡委員、保科委員（東小学校長）、黒田委員、斎藤委員（豊澤委員代理）、西川委員、菊地区長</p> <p>【意見交換進行】                  西尾 敦史氏（愛知東邦大学教授：第4期にこまちプラン策定アドバイザー）</p> <p>【事務局】玉崎福祉保健センター長、岩崎福祉保健課長、東海事業企画担当係長、讃井事務局長（西区社協）</p>
議事等	<p>○開会                  ○区長あいさつ                  ○委員長の選任：事務局への一任で天笠委員が委員長                  ○議事等</p> <p>（1）第4期西区地域福祉保健計画（にこまちプラン）について                  事務局説明：東海 事業企画担当係長                  讃井 西区社協事務局長</p> <p>（2）第4期西区地域福祉保健計画（にこまちプラン）の推進について                  事務局説明：東海 事業企画担当係長</p> <p><b>西尾先生の講評</b>                  限られた時間ではありますが、委員の皆さんのご意見を多数伺えればと思います。本日は、まずアンケートに寄せられたご意見が多かった「防災でのつながりづくり」をテーマに意見交換を進めていければと思います。第4期計画の目標1に、「安全・安心なまちづくり」が掲げられています。防災というのは「自助・共助・公助」を推進していかなければなりません。そのためには、地域の力がとても重要です。この防災に、各団体、団体間でどのように取り組めるのか、課題なども含めて伺いたいと思います。</p> <p>○これより意見交換は、<u>西尾先生が進めます</u></p> <p><b>主な意見</b>                  ◆第4期計画は昨年度完成してスタートの予定でしたが、コロナの影響で一年遅れになりました。地区別計画のリーフレット紙面を見てみると、第3期より明るくなったように感じます。各地区とも第3期から様々な活動に取り組んでいることが集約されています。計画をつくってゴールではな</p>



く、スタートなんだということを認識して進めていきましょう。

◆西区は再来年に区制80周年を迎えますので、この時までに目標を達成できればとの思いがあります。素晴らしい80周年を迎えたいです。

◆青少年指導員は、各地区防災訓練は実施しています。各地区高齢者の情報収集を行っています。地区によっては高齢者の安全確保、安否確認として黄色いタオルを配布し、自宅にかけてもらうよう活動しています。

◆区社協としては、地区社協に対して資金面や防災活動のノウハウを提供していきたいです。活動へのきっかけとなる手助けもできたらと考えます。区社協があつてよかったと思ってもらえる活動を目指します。

◆各地域には防災拠点があり、その拠点を運営する委員がいますが、あまり機能していないように感じます。3、4年前に大雨による水害が発生した際は、避難場所に駆け付けたのは学校と行政だけでした。

◆さきほど「自助・共助・公助」というお話がりましたが、私たちは「近助」が重要と考えています。一番近くにいる人が力になることが大切で、近所でわかりあえる間柄、顔の見える関係づくりを邁進していきます。

◆民生委員では、市から75歳以上のひとり暮らし高齢者の名簿が配布されていましたが、民生委員の要望で、高齢者世帯まで名簿対象を拡大し、見守り活動を行っております。

◆西区では「ふれあい会」という組織があり、見守り活動をしています。地域にも浸透していてとてもいい活動だと思います。

◆再犯防止推進法が改正され、神奈川憲章のもとに、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めています。地域の中から犯罪者をつくらぬよう、子どものうちから地域での役割を支えていることを教えていきます。子育て中のお母さんも一緒に目指して行ければと考えています。

◆犯罪からの立ち直りに必要なのは、安心して暮らしていける地域の見守りと「住」、「職」、「学び」の保証です。これらの相談ができる場所も必要です。

◆ちょっとした困りごとや生活を支援するようなサービスは、ボランティアでも可能です。

◆発災時にケアプラザが福祉避難場所であることを知らない方が多いように感じています。ケアプラザの存在意義にもかかわります。また、個別支援をしているが、地域支援に切り替えていくためにみんなで考えています。

◆防災と障害は、つながりづらい。障害者は自身の存在が地域に知られていないことに壁を感じている。障害に合わせたつながりづくりを考えて時

間を共有する場所が必要です。障害だけでは進みません。

◆福祉避難所の運用方法の見直しが必要と感ずます。障害者が直接福祉避難所に行けるようお願いします。

◆西区として障害者を交えた防災訓練を以前は毎年各地区の小中学校で実施していたと思います。最近は実施されていないようだが継続することを望みます。

◆昨年、平沼小の防災拠点訓練で映画「いのちのことづけ」を上映したとき、&COCO（アンドココ）の所長が「指文字」を紹介し感動しました。地区に在住の当事者がトリエンナーレやプレオリンピックに参加していたが多くの方は知らないようでした。情報共有してほしいです。

◆自立支援協議会では、4つのエリアに分けた防災部会があります。顔の見える関係づくりで防災訓練を実施してお互いを支えあっています。現在では主体的に動くように、地域の防災訓練に参加させていただくよう話し合いを進めています。

◆主任児童委員（対象：0歳～18歳）としては、目標4の取組が関係しています。コロナ禍であり、子どもたちは休校やオンライン授業で、友達関係がつくれていないと感ずます。特に中高生に多く見られます。その結果、孤立を感ずて溜まり場（横浜駅西口 ビブレなど）に集まるようになっている。サロンや地域の食堂にも参加させていただいています。子どもたちが笑顔で楽しくいられるよう取り組んでいきます。

◆コロナ禍において活動ができなかったことで不安を抱える子育て中のお母さんが増えたので、フォローすることが比例して増えました。スマイルポートのあるみなとみらい地区は、働いているお母さんも多く、職場への復帰が早い。地域とつなげることは難しいです。

◆皆さんのご意見を伺っていますと防災イコール広域的な災害と感ずていらっしゃるので、防災を面で捉えてしまうようです。災害は火事や風水害など日常的に発生しており、その一つひとつに対応できなければ、広域的な対応はできません。

◆さきほど「近助」という言葉がありましたが、消防には「地震三原則」というものがあり、まず、その場にあった身の安全を図る。次に、素早い火の始末。最後に、隣り近所の助け合いです。その対象が、高齢者であっても障害のある方であっても、手を差し伸べることに変わりはありません。

◆消防では、大きな災害が発生した場合、どんなに時間がかかっても対応します。この場合、消防は面で対応できますが、点での対応は難しく、地域のみなさんの力をお借りしながら後追いで対応いたします。組織を大切に、つながりを大切に、顔の見える関係を築くことは必ず力になります。

◆健康づくりをテーマに活動しておりますが、年1回防災について取組を行っています。昨年「缶詰協会」と連携して、災害時に缶詰を使ったレシピを学びました。今後は、「災害時のレシピ集」を制作できたらと考えています。

◆目標2に力を入れて活動しています。健康診査、がん検診からワクチン接種まで地域で活動しています。防災に関しては、さまざまな団体と連携できることは一緒に取り組みたいと考えます。

○地域包括支援センター運営協議会の運営及び報告について

事務局説明：東海 事業企画担当係長

#### 区長所感

委員のみなさまから多数の貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。コロナ禍において、つながりが希薄になっている中だからこそ、この「にこまちプラン」が必要と感じました。防災につきましても災害の大小はありますが、いろいろなところで発生しています。そのような時にみんなでどのように助け合っていくかを考えることは大切なことです。福祉避難所や避難所の防災訓練についても一過性で終わるとつながっていきません。持続性が大切だと思っております。

また、組織力の強さも必要です。様々な組織の方にご出席いただいておりますが、組織をネットワークでつないで強固なものにすることが、にこまちプランだと思います。課題解決に取り組むうえで、行政として情報を共有して、何をすべきかを考えて進めていきます。

本日は、お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。

○その他

#### 連絡事項

◆次回の「西区地域福祉保健計画推進・評価委員会」はあらためてご連絡いたします。

◆チラシをお配りいたしました。令和4年度の「にこまちフォーラム」を7月28日（木）に横浜市健康福祉総合センターで開催いたします。

○閉会